坂を通した交流続けました

「坂のまち元気プロジェクト」は2025年度も坂を通して地域が交流する活動を続けました。1年間の活動の様子を紹介します。

玉大生や子どもたちと

2025年度も、玉川大学教育学部の阿部隆行ゼミを中心に、学校法人玉川学園とコラボレーションが広がりました。

阿部ゼミでは、春に玉川学園地域の坂を歩くのが恒例になっていて、2025年度は5月1日、ゼミに所属してまもない3年生が、坂のまち元気プロジェクトの渡辺信輔代表らを案内役に、10の坂を巡りました。

11月に毎年開かれているコミュニティセンターまつりでの、ふれあい坂を使った阿部ゼミ生による坂遊び（じゃんけんグリコ）も、すっかりおなじみに。2025年は大学の土曜授業と重なったため、日曜だけの開催でしたが、センター脇の坂には、子どもたちの歓声が響きました。

玉川大学では独自に「SAKA活」を展開。学園のキャンパス内の坂を歩くイベントでは、坂のまち元気プロジェクトのメンバーらが参加するなど、交流の輪が広がっています。

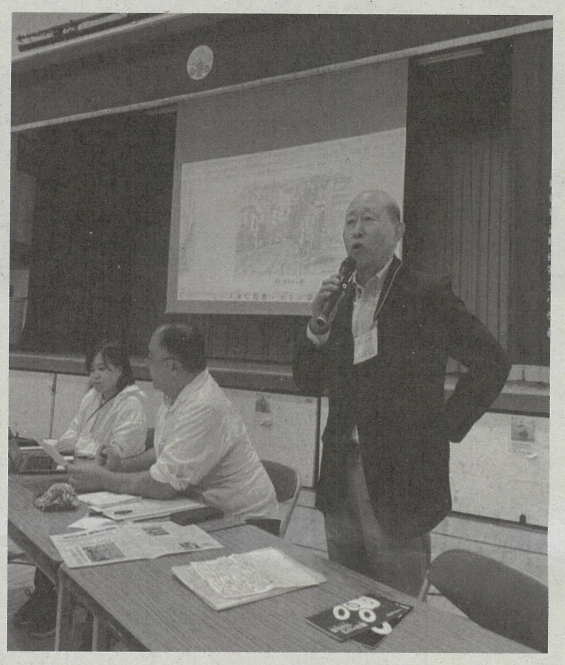
学校法人玉川学園では学園ができて100周年が近づいていて、地域との関係を改めて深める動きが強まっています。



▲うぐいす坂・女坂のうぼこ山本宮前で、渡辺代表の説明を聞く学生たち▼コミュニティーセンター脇のふれあい坂での坂遊び



坂歩きや坂遊びが恒例に



▶自身が描いた坂の絵をスライドで示しながら説明をする河原井さん（右）

坂のまち元気プロジェクトのメンバーが10月23日、町田市立町田第五小学校の体育館で、6年生に坂への思いを語りました。

講師は10の坂の絵の描き手である河原井弘道さんと代表の渡辺さん。2024年度は坂を巡る活動もしましたが、今回は講演だけとなりました。

渡辺さんからは「坂のまちは住んでいて楽しいまちです」などと、坂のまち愛にあふれた話が聞けました。

また、「のらくろ坂」の「のらくろ」がピンと来ないようだったため、河原井さんは、いかに漫画のらくろと作者の田河水泡さんが当時有名だったかに時間を割いて話しました。

講演を聞いたあとで書いてもらった児童の感想からは、子どもたちの心をいかに動かしたかが読み取れました。

印象的なコメントをピックアップしてみるとー。

「話を聞いて、玉川学園がさらに好きになりました」

「自分が何ができるか考えるきっかけを作ってくれて感謝の気持ちでいっぱいです」

「坂のこと、街のことを、もっと知りたいと思いました」

「私も玉川学園を好きになってもらうために行動しようと思いました」

「自分もなにかできないか考えようという気持ちになりました」

講演のあと、気になった坂を確かめに行った児童も珍しくなかったようです。

町五小6年生が学園の坂を学ぶ

「学園がさらに好きになった」
「坂のこと、まちのことをもっと知りたい」
「自分も何ができるか考えるきっかけになった」

（子どもたちの感想から）

三二情報

■坂のまち歩きマップが好評です

代表の渡辺さんが作成した「坂のまち歩きマップ」が好評です。坂を上がった先の景色とリンクしてあって、ベンチ（憩いのいす）の場所もわかります。

■河原井さん、ラジオ玉川学園に出演

玉川学園fmコミュニティ放送準備室の渕純男さんが始めた「ラジオ玉川学園」に2025年10月、河原井さんが出演。10の坂を描くまでの苦労やポストカードを通して人と人がつながっていく楽しさなどを語りました。放送はYouTubeで見られます。

■学園中学部修了生の集いでも話題に

2024年に、坂のまち元気プロジェクトのメンバーの案内で坂を巡った生徒の1人、平本愛実さんが、2026年3月の中学校課程修了生のつどいで代表挨拶し、メンバーとの活動で視野が広がったと話してくれました。

坂のまち
玉川学園
ギャラリー

ふれあい坂

撮影者
中西　茂
撮影日
2024年11月3日



※とっておきの写真を募集します